

「あなたは何者なのでしょう。」

あんたを探してる。あんたはどこにいる。あんたはそもそもいるのかな。

ココロが減らないって本当？ 終わらない存在って本当？

噂が噂を呼んで、噂という地盤の上に立ってる噂じゃないのかな。

もし、あんたが本当に存在するのなら。

私の目的は……。

あー……そろそろ、足りなくなってきたね。うん、そうだね。

ふうー、だいぶ歩いたかな。この辺り、なんだか涼しげじゃない？ 確かに。

一面が緑。でも、視界が広いね。余計なものがない。

まあ、涼しかりうが蒸し暑かりうが、私の足しになりはしないか。そだね。

あー、足りない。足りないよ。まだ……終わりにたくないなあ、……あー……。

……ぐく……ぐく……、……。

……んう、うーるさい……、……んお？

……お、おー？ おや、おやおや、おーはよう。

いやー、珍しいね。ひとだ。久しぶりに見た。

んしよ。あー、えっと、どうも。あんたは、どこから来たのかな。

……ええと。私は、迎エ火っていうの。

うん、迎エ火。……は。えびちゃん？ そんな呼び方するひと、初めてだわ。

まあいいけどさ……えびちゃんね、ふんふん……。

……ん？ なぁに見てるのさ。なんだよー、なんなのその視線はー。

どこか変？ 気になるところある？ ……ああ、そう？

んで、あんたは何者さ？ ……へえ、まあ、そういうひとたまにいますね。

大丈夫、気にしないで。でも、そうだなー、ここにいますという事は、

あんたもたぶん、そうなんだろうなあ。……教えないよ？

それは自分で解き明かさないと。

ああでも、お助けする程度なら。しばらく一緒にいてあげるけど。

お助け、ほしい？ ……そう、分かった。

そのかわり。私に、好きって言ってもらえるかな。……いいから、早く。

……はい、ありがとー。……んう？ おやや。一回で……？ うん、驚いた。

いやいや、こっちの話。……んー？

……あ？ なにさ。私は言わないよ？ だって別に、好きじゃないし……。

あーあー、そんなに怖い顔しなくても。

ほら私ってさ、あんたと違って、それがないと終わっちゃうんだよね。

ココロが、なくなっていくんだよ。常に満たしてないと、終わりは始めるから。

終わりの始まり。それ以上は、どう説明しようもないよ。

んー、しばらく大丈夫。でも最近ね、人影ひとつ見えない日が続いて、

そろそろ終わりかなあって、ついさっきも思ってたよー。

さあ、そろそろ行こっか。……とにかく早く、歩いて。ほらほら。

訊きたい事があるなら、歩きながらいくらでも教えるから。

やー、ほんとさー、何もないよね。

緑とか、青とか、そればかり。……私はね、気づいたらここにいて。

名前と、あとは、言葉？ とか。あと、それなりの事は分かってるんだけど。

うーん、例えば、私は「ヤマキタ」っていうところから来たんだ。

そうそう、場所の名前。ここからだちょっと歩くよ。

……んー？ 目的、かあ……。あー、えっと、まあ、あるにはある。

ぼんやりと、でも、必ず達成したい目的。二つ。二つあるんだ。

ああ、でもさ、あんたも私の事言ってるんじゃないよ。

早く何か見つけたいとねー。……でないと……うん。

いやー……本当、どうしてこんなところに生まれちゃったのかねー。

まあま、楽しい事もあるにはあるけど。

例えばほら、あんた。あんたと出会ったのは、楽しい事だよ。

普段はねえ、私、普段は独りで喋ってて、自分と話してるからさ。

こんな風に、目と目を合わせてお話するなんて、楽しくて仕方ないよー。

でーもー、あんたはそういうわけにはいかないじゃないか。

……つまり、終わっちゃうの。

何も見つけられずに終わったひと、たぶんたくさんいたよ。

え、……んー？ ミズ、……ああ、水？ おっ、て事は、思い出せたの？  
水があれば大丈夫って事かな。……ゴハンつてのは、なにさ。

よく分からないけど、まあ、水は知ってる。たまに見かけるし。

ヤマキタにも、水があったなあ。私には必要のないものだっただけね。

んじゃあ、そこまで行こうか。……はいはい。こっちですよ。

……ところであんた、ほーんと何も分からないひとなんだね。

名前すらっていうのは、珍しいかな。残念だけど、最初に分からないければ、

どうしようもないと思う。私自身も、今以上の情報は分からないから。

思い出すんじゃないくて、何かを見つけて、それにすがって生きていくの。

……あー、ちよつと、喋り過ぎたかな。ココロ、なくなるの早いなあ。

ごめん、もう一回くれる？ ほら、「好き」、を。

……んう、ありがとねー。もう平気だよ。

あはは。あんたは、水と、ゴハン？ が、ココロを満たす存在だといね。

そのあたりまでは、まあ、付き合いますよ。

じゃあほら、行こう。終わらないためにさ。

とても素敵なところです。

ここがヤマキタだよ。いやー、スタート地点だねえ。戻ってきちゃったねえ。

懐かしい景色だなあ。とっても素敵だよねえ。

でもやつぱり、なーんもないし、どことも変わらない。緑と青だ。

あ、ほらそこ、下見て。水が流れてるでしょ。

あつ。ちよつとー、走ると危ないよ。滑るから気をつけてねー。……やれやれ。

おーおー。今日もずっと止まらないねえ、水。見てて飽きないなあこういうの。

……お？ ええ、口に入れるんだ。そうやるんだねー。

どう？ ココロ満たされるかな？

え、……そっかー、残念。ま、そういうもんだよ。気にすんな気にすんな。

いやいや、謝らないでよ。別にあんたは悪くないでしょうに。

そーんなさー、へこへこ頭下げてさー、こっちが申し訳なくなるでしょー。

ほら、次はゴハンつてのを探そうか。それって、どういう存在なの？

……ふんふん、……んー？ いまいちピンと来ないけど。

でも、そんなにハッキリ分かるっていうなら、正解なのかな。

早く行こ。たぶんそろそろ、空の色が変わっていく時間だから。

そうになると、歩くのは大変だよ。

うん。……へっ？ あえ？ ……おあつ、ありがとー。

でもさー、あのさー、好きって言う時には、一言断ってもらっていいかな。

でないとなんか、ちよつと、うん。あ、いや、そういうのじゃなくて。

……ん？ ……あー、まあ、そりゃね、ここまで生きてきたわけですから、

私も色んなひとに言ってもらってたけど。

んー、あー、どうしよ。何と言うか、あんた以外のひとから言われたのは、

あんまり満たされなかったんだ。だから、何度も何度も言ってもらってたの。

でも、どうしてかな、あんたは一言で私を満たしてくれるね。不思議だねー。

……私ってさ、自分と喋るだけなら、全然ココロ減らないんだ。

だから、最後に好きをもらってから、どれくらい経ったか忘れたけど、

でも、忘れるくらいの時間は終わらずにいられたんだよねー。

それが今日はやばいよお。三回も満タンになったのにさあ、

あんたと話していると、どんどんどんどんなくなっていくんだ。

あ、ひよつとして、……ああいや、何でもないよー。

ゴハンだね、ゴハン。探さないとねー、うんうん。

でもごめん、私その心当たりがないからさ、一から探さないとだよ。

それまで、あんたが持てばいいけど……ちよつと不安だなあ。

あんたがいなくなったら、私も終わりを危ぶむ立場になっちゃうし。

こう見えて結構、焦ってるんだよ？ 目的達成せずに終わりたいくないもん。

どうかな、ココロ減って感じる？ なんかこう、ぐあああ、って、

意識が遠のいていくというか、まともに考えられなくなってくる感じ。

早いひとだと、一日も持たないで終わっちゃうからさあ。

……平気そうだね？　なんだろう。もう結構、歩いたんだけどな。こんなにお話しても大丈夫っていうのは、ううん、分からないなあ。相当タフなのか、それとも、ゴハン以外の何かが源なのかなあ。

んー、謎だ。謎だらけだねえ、あんたは。

……あ、ああ？　うん、言っているよ？　……ん。はあー、満たされるなあ。

何か悪いね。私ばかり満たされて、あんたのは何一つ見つけられてないのに。あんたがいる限りは、私、長生きできそうだよ。

こう見えて私、終わりたくないんだ。……そうは見えないでしょ？

いやー、あはは、何と云うか、感情を出すの苦手っていうかさー。

あんたはよく喋るよね。動きもなんか、素早いし。

よくそれでココロが持つなあ。ほーんと、珍しいねえ、不思議だねえ。

ああ、いいのいいの。あんたといるとすぐに補給できちゃうからさ、

そんな事より、自分の心配をしながらね。

まあ、大丈夫そうなら、ちよつと休憩挟もうか。一気に歩き過ぎたもんねえ。

ほらそこ、座れるところあるからさ、水でも眺めながら休もうよ。

☹️神様なんて信じない。

すぴー……すぴー………あえ？　あ……ごめん、また寝てた。

わあー、もう空が青黒いじゃんさ。真っ暗じゃんさ。

んあー、起こしてくれればよかったのに。見せるねえ、余裕見せるねえ。

……あ、そうなん。ありがとね。でも、そんな寝顔してた……？

……はあ？　……そんな事をさ、言っさ、私に何を期待してんのさー。

まあ、その、ありがと。寝顔とか褒められても、別に嬉しくないけどー。

って、なんであんたが照れてんの。間抜けだなあ。マイペースだなあ本当。

……んんん………！　ふうあ。眠気が醒めたから、そこは感謝って感じかな。

……お？　なにそれ、その手に持つてるやつ。……木の実い？　ああ、なんか、

木にたまに生えてるやつ。ほー、それが……ゴハン？　だっけ。というわけ？

どう？　……あら。それも違ったか。うーん、雲行き怪しくなってきたなあ。

でもさ、変わらないんだよね？　……はあ、そっか。そっか。ふうーん。

……ん。あんたはさ、私の事ばかり心配してさあ。変わってんなあ、もう。んんん。ねえ。

好き。

お？　おお、びっくりした。あはは、何だその顔。

ごめんよ、ごめんよ。やー、ひよつとしたらって思っさ。どうよ。

………あっそう。違ったか。いやさ、言ってもらってばかりじゃ悪いし。

何も感じないか。そっか。で、水もゴハンも要らなくて。

でもココロは減らない。いつまでも生きていられる。ふんふん。

じゃー、やっぱりー、そうなのかなー。

あんね。さっきさ、目的があるのかって聞いたじゃん。

私は、神様を探してるんだ。いるのかどうかも分からなくてさあ。

でも、たぶん、この世界をさ、知らん顔して、どこからずーっと見てる、

偉いひとがいるんじゃないかなって思ったわけ。

それってたぶん、私達みたいな欠陥品じゃないんだよねえ。

ココロとかなくならない、歩き続けたって平気……。

きつと私の事も見てて、生かさず殺さず、なんにも教えてくれないの。

……ちようど、今……目の前にいるよね。そういうひと。

目的の二つ目を言っさなかつたね。

それはね、神様を……終わらせる事。

ねえ終わってくれる？　たぶんあんた、神様なんじゃないかなあと思うんだ。

……おつとつと、そんなに慌てなくてもいいじゃないか。分かってるよ。

記憶がないんですよ。どうしてここにいるかも、名前すら分からないんですよ。

そりゃあ、神様って自覚なくたっておかしくないよ。

おかしくないから、それはそれでいいから、はい、おしまい。

ひとまず私は、私の目的を達成するために、あんたを終わらせまーす。

んふー。怯えてるね。落ち着こ？　まず落ち着いて、ほら、深呼吸。

んん？　あつはは。否定しまくりだね。そりゃあね、びっくりするさあ。

そうそう実はねえ、あんたに嘘ついちゃったの。嘘と言うか、意地悪かな。

この世界はあ、「好き」って言葉にしちゃうとねえ、終わりが早くなるんだ。正確に言うと、意識した事を吐き出すと、その分ココロが減るんだよ。

言葉って知ってる？ 言葉の力。言葉の生命力。

思っただけでいなくても、

「好き」だなんて言ったら、ほら、意識しちゃうでしょ。

そういうね、言葉を糧にして、消費して、奪い合って生きるのがこの世界。

ここは——言葉の世界。

それを知る為にね、終わらない為にね、私の「旅路」は、

いろーんなひと達を終わらせてきた……軌跡なんだ。

ずっとあなたの事もオー、試してたんです。がっかりした？ ねえ。

きひゃひゃひゃひゃッ。ごめんごめん、あなたは優しいから。

疑いひとつ持たずに、私に好き好き言ってくれたね。

ありがとね。感謝してる。

でもそのやさしさが、あなたの正体を暴くキツカケになっちゃったねえ。

……そろそろ終わらせるね。今までどうも。楽しかったよ。バイバイ。

……おいおい、命乞いしないの？ 本気じゃあないって、たかくくってる？

あーあー、舐められてるな私。

あなたは神様だから、ココロは終わらないかもしれないけどさあ。

刺せば終わるでしょ。脳天かち割れば終わるでしょ。ひとの形してんだから。

試す事で生きてきた私だから、またその時が来ただけさ。

……ふふ。それ言うと思ったあ。

神様を終わらせたとところで、何が変わるか、そりゃ私にも分からんよ。

だから、ほら、試すんだ。試しに終わってみておくれよ。

そもそもねえ、あなたがくれる「好き」は、ちよつと異常なんだよお。

ココロ満たしすぎ。言葉つすぎ。そのくせあんた終わらないじゃん。

それっておかしいじゃん。言葉は、使えば使うほど終わりが早くなるんだよ。

つまりそういう事だよ。ひとならざる力だね。神様だ。

……、はあ、命乞いはしないのに、神様である事は否定するの、おかしいなあ。

変だなあ。だって私以上にさ、納得できる理屈は用意できるのかな。かなあ。

おー？ ……ふん、ふん。はあー、ほうほう。

そりゃあね、私は私の知りうる事しか知らないから。

私、目に見えたものしか信じないからさ。それ以外は全部、架空だよ。

いやー、でもそうしたら矛盾してるかな。神様も見た事ないもん。

そうだね、それが唯一、私が……半信半疑を追っかけてるものかなあ。

………、……ほう。あなたの命乞いは、「好き」ってわけ？

今まさにさ、終わらせられそうになってるってのに、それでもあんた、

私のココロ満たそうとしてくるんだ。そうなんだ。

ごめんねえ、えびちゃん無慈悲だから。無慈悲……だからねえ。

あはは、どうしたんだろ。どうして私、一歩も動かないのかなあ。

おかしいねえ。おかしいおかしい。早く終わらせなよ、迎エ火。

望んでた事でしょう？ 目の前にあるんだよ。目的が突っ立ってるよ。

早く、終わらせないと。ね。そうだね。

……、……もしかしてそれ、作戦なわけ……？

そんなさー、なんかさー、好き好き好き好きって言われてさー、

好きってさー、好きって……好き……うう、ううう。

あああ、ずるいなあ。ずるずるだなあ。ずる才だなあ。

言葉なくならないのを良い事にさあ、好き放題言っさあ……。

言葉もらう回数、好きをもらう回数……記録更新だよ。

こっちの気も知らないで……私が……どんな思いで今まで……。

……、あはははは……。そうか、そうだね、そうだった。

好きって言えって、言い出しっぺは私だったかな。自業自得かな、私。

ちくしゅ……く……はあ……。

……なにさ。神様探し、手伝ってくれるの？

あんまり調子乗らないでよ？ 私は、あんたがそうだと思ってんだから。

でも、うん。あんたが、言葉を吐き出す事が、ココロを満たすってんなら、

言葉もらってココロを満たす私とは、助け合う関係なのかなあ。

あんたに、好きって言われ続けるだけで、お互いずっと終わらないもんねえ。

まあ、そうだねえ、それなら、神様見つかるまで付き合ってもらおうよ。

はい、じゃあ……仲直りしようか。知ってる？ 仲直りの仕方。手と手をね、こうして、……ほら。

……なーんか、ぽわぽわしてんね、あんたの手。

はーあ、こうしていると、ひとにしか思えないんだけど……。

それに、どうしてだろうね……。ココロ、満たされる気がする……。

少しの間、こうしてても……いいかな？

## ♪新しい日の朝。

すびー……すびー……。

……ふぁ。おー、おー……？ おーはよう。もう空があ、青いねえ。

んんー……！ ふひい。昨日は、……あー……疲れて寝ちゃったのかぁ。

……んー？ おおーう、ちよつと、まじまじ見ないでくれるかな。ハズい。

んふふ。昨日までさあ、命のやり取りしてたのにねえ。あれれ・

どうしようどうしよう。急にあんたの事があ、愛おしくなってきたよ。

ほんつとうにさあ、あんたってえ、不思議なひとだねえ。

……やさしくしてくれて、ありがとうねえ。……嬉しかったよ。

うわーうわー今の無し。無し無しつう事で。ハッズ。あーもー。

あんまりさあ、氣い許すと、また痛い目見るよ。

あんたと私は、利害が一致してるから一緒にいるだけだって事、

よく理解してね。いい？

……よろしー。じゃあ今日も……歩こうか。ああ、その前に……、

私も、木の実を食べようかな。食べたならなんか、分かるかもしれないじゃん。

あれってどんな感じなの？ ……ほーん？

なんとも、言葉だけじゃ分からないねえ。やつぱり試さないとダメだなあ。

そんじゃ、木の実探しからの神様探し、すたーと。

いやー、今日はたくさん歩くだろうなあ。たくさん喋るだろうなあ。

ココロ減るよね。いくら私でも、終わっちゃうかもねえ。

誰かから、「好き」をもらわないと終わっちゃうねえ。誰かくれなかなあ。

……んねえ。昨日あんなにくれたじゃんか……何で今日は……ねえ。

ねえーってば。……くれないの？

う。……あんた、結構……悪い奴だなあ。……そんなに私に……言わせたいの。

だって、あんたはもらっても意味ないじゃん……。

そうやって私に、無駄に言霊使わせて……寝首でも搔くつもりですかあ？

……あーもー、あーもー……。……す、……クツ……なにこれ、もう……。

……すぎ、です。ハイ。ツ……。……。……。……。……。……。……。

終わりそうッ、ある意味終わりそうッ……しんどッ。

お、あ、あんたッ、なに笑ってんのさッ。あんたが言えって言ったんだろ！

……はッ？ ちよつと、さ、ほんと、あんまり図に乗らんでくれるかな？

なに、主導権……握ろうとしてんの？ あんただって、私に……言わないと、

終わるんだよ？ いいのかなあ。……、いいんかいッ。

いや、ダメだよ、私は終わりがたくない。お、お願いだから、す、す、す、

好きッ……だから、好きッ。う、だ……大好きッ、ですッ！ はいっ！

……うううああ……なに言ってるんだ私、くそ、くそ、ううあ。

ああ……そんな顔で……言うんじゃないよ、もお……顔、見れないよ……。

え、なに……？ もしかしてこの先、ずっとこうなの……？

言霊もらうたびに私、こんな思いしなくちゃいけないの……？

……ああ……これ、あんたの、昨日の仕返してわけかなあ。あはは……。

おあッ。ちよッ……何してるの。なに？ 頭になんかついてる？

……何それ。わけ分かんない事ばかり言わないでくれるかな……。

まあ、でも、うん……悪くはない、かもね。うん。かもだから。かもかも。

あー……頭、変になりそう、だなあ。やつぱりあんた、神様でしょ……。

どう考えても、頭をそうやって……手でさ、撫で回して、こんなにふわふわ、

いや、何か、熱くてジンジンしてくるの、おかしいじゃん……？

何の力なのさ、それは。……あー、調子狂うなー。

うぎやー。ダメダメ、終わり。ほら、さっさと出発するよー。

新しい神様探しの、記念すべき一日目でしょー。行きましよ行きましよ。

……そうだ。

ヤマキタは、やっぱりスタート地点なんだねえ。私が最初に目覚めたのも、ここだったからねえ。

どうしてだか、ゆかりのある場所なんだよなあ。それも不思議だなあ。

いつかまた、ここに帰ってくる……あんのかねえ。

その時はさあ、神様……見つかったるといいな。

……それが、あんたじゃないことをさ……祈ってるよ。うん。

とりあえず、木の実……探そうか。

えびちゃんがえびちゃんに。

ひゃー、なにこれ。なにこれ。でっかい水溜まりだ。……湖？　っていうの？

あんたは何も覚えてないくせに、いろんな事知ってたねえ。

でもさあ、木の実はなんか……よく分からなかったなあ。

んー。まあ、さっきも言ったけど、

特になにも、……口の中に入って、飲み込んで、それだけだったね。

やっぱり、そういうのは必要ないみたいだね、私達。

やーやー、しっかし、かーなり歩いたねえ。うーん、どうしてかな、足が……、

ちよっと痛い……のかな？　こんなに歩いたの、初めてだなあ。

歩き過ぎるとこうなるんだねえ。初めて知ったよ。

んで、この景色もなんか、初めてだよお。すごいなあ、すごいなあ。

あんたって、私にいろーんな初めてをくれるねえ。ほとんどが初めてだよねえ。

あんたといると、退屈しなくて済みそうだなあって、いまさら思っちゃったよ。

うん。

……あんたはさあ、私と一緒にいてさあ、退屈とか……感じてない？

あ、いや、ごめん、忘れてー。何でもないよー。……、何でもなかったら。

あーもー。

本当あんたって……余計なところに食いついてくんだから。ったくもお。

だってさー……私、これまで会ったひとたち……終わらせてきたから……。

……終わってほしくない、とか、あんたに……そんな気持ち抱いてんの、

すんごく馬鹿らしいでしょ？　ね？　笑っていいよ、あははは、って。

え……あ。そ、そっかー。ふーん。まあ、はい、そんなら、いいよ。うん。

あー……うああ、何だろうなあこれ。あー、……あー……！！　うーッ。

しんどいなあ。あんたの顔見てると、声聴いてると、しんどい。なにこれ。

げっ。……なんで、近づくのさ。どうして近づいたの。何する気さ。

……な、何か、言いなさいよ。こら。ちよ、あんたさ、もしかして……。

私の反応見て、楽しんでんじゃないの。うわー、うわー、やめなよ、もう、

そういうのさ、悪い奴だよ、やっぱり。よくない奴だよ。ねえ。ねえってば。

ぎあッ！　ちよッおあッ、ああッ、あ、なにッ、なにになにッ、ひいいッ。

あ、あんた、何してんの。何、それは。えと、どういう、どういうアレなの？

私をどうするつもりッ？　逃げないよ、私は逃げませんから、落ち着いてっ。

あああ……なん、これ、すごい、ココロ、やっぱ、振り切れそう。てか、てか、

振り切れるッ。おかしくなる。おかしくなるから、やめてッ。

うッ……はあ、はあ……。おおおう、……な、なん……、

なに……してくれちゃってんのさ……。いきなり、そんな、ねえ、ちよっと。

……う、うるさい、話を逸らさないでくれるかなあ？

な、何度も言うけど、あんた、本当に不思議だね。

まあ、うん、慣れてきたけどね？

今のは、……ちよっと、ちよっとだけ！　びっくりしたけどさあ。

……ちよっとだよ。……ちよっとだから！　何なのさ、その目はッ。

あんた、どんどん私の事、舐めてきてるねーッ？　私、怒ると怖いんだよ？

今まで一度もさ、手出しできなかったからあ。ここいらで一発、

この迎エ火の恐ろしさをお、その身に教えてあげようかなあ！

ひああああッ！　おッオオオッ。おッお……！！　おオッ！

や、やだッ、やめてッ、これやめてッ、変になる、馬鹿になるッ、

すみませんでしたッ、生意気なこと言っ、すみませんでしたッ、だからッ、

離れてッ……！！　……う、……ふーッ……ふーッ……。

……う、ううう、あああ、やばい、やばいやばい……バレた……、

私の弱点、私も知らなかったのに、バレた……どうしよう、どうしよう……。

……ハッ。あ、ああ、いや、……こほん。

いや、あんまり嫌じゃ……ないというか、むしろ、まあ、……イイ、というか。ねえあんた、すごい顔ニコニコしてるよ。なんか、きらきら光って見えるし。ひよつとして、凄まじくココロ満たされてんじゃないの。

……ふうー……。ちよつとねえ、冷静に考えてみました。

なんとなく分かってきたんだよ、あんたの事。

あんたさ、最初に目覚めて、私と出会った瞬間から、ずーっと……

ココロ、満たされっぱなしだったんだね。だから……終わらないんだ。

やっぱり、あんたは……神様じゃなかったんだなあ。そっかあ。

……嬉しいよ。変な言い方かもしれないけど、さ、

神様じゃなくて、ありがとうね。

ココロが減ったら終わる世界で、あんたみたいな、

ひとのココロを一瞬で満たせるひととね、こうして巡り合えて、

私はとってもラッキーだって。うん。

でさ、……今さっきのアレは、うん、私がなんか、変な事を言っちゃったから、

あんた、気を利かせてくれたんでしょ？ ……それも、ありがと。

……こんなにココロ満たされて、とっても……幸せって感じ、するなあ。

今まで、こんな事は一度もなかったのに。知らなかっただけなんだねえ。

やっぱり、知るってのは重要なんだなあ。

……あはははははははッ！ ひひッ、ふふッ、ふううッ。

ごめんごめん、なんか、おかしいなってさあ。

知れば知るほど、この世界を分かっているんだなあ。

分かった気になってるだけかな？

どちらにせよ、こんな世界を創って、こんな私達を生んだ神様には、

やっぱりひとつ文句言ってやらないとね。

……最後まで、付き合ってもらおうよ？

ま、その、満たされっぱなしってのも……不公平だよねえ。

……、はい……これでおあいこ。

ふへへ。自分からすると、案外大丈夫だった。……すごい怖いけどね。

あんた、身体おつきいね。カチカチするし、私と全然違うなあ。

触ってみて、初めて分かる事ってのもあるねえ。木の実もそうだったし。

あんたの身体も、そう。

……あんたは、色々知ってるみたいだし、たくさん、教えてほしいな。

見つけるのも、教え合うのも、……楽しかったりするから。

たくさん、いっぱい、楽しい事……しようね。

(終)